

不祥事根絶に向けたメッセージ  
～教職員の皆さんへ

令和7年11月5日

はじめに

日々、教職員の皆さんが、誇りと情熱、そして使命感をもって、子どもたちの教育に携わっていただいていることに、心から感謝しております。県内の学校を訪問した際に子どもたちが見せる、溢れる笑顔、真剣な眼差し、そして生き生きと活動する姿を通して、教職員の皆さんが絶えず研鑽し、献身的な努力をされていることを実感しています。

また、校内から不祥事を根絶しようという強い意志のもと、不祥事防止研修を定期的に行い、コンプライアンス意識の向上に積極的に取り組んでいただいていることに対しても、大変心強く感じています。

まさに教職員の皆さんが、子どもたちの健やかな成長のために、そして安心・安全な学校をつくるために日々努力される姿が、学校及び教職員に対する信頼へとつながっているわけですが、その信頼は、教職員の不祥事によって一瞬で失われてしまうことがあります。

一度失った信頼を取り戻すには、たとえ教職員が一丸となって努力を重ねても、何年もの長い時間と労力を要します。また、不祥事を起こした本人への社会的制裁はもちろんのこと、本人の家族への影響も計り知れないものがあります。

県教育委員会では、近年続発する不祥事の根絶を図るため、市町村教育長会や高知県小中学校長会等と連携し、様々な未然防止対策に取り組んできました。しかしながら、本年度に入り、小学校で盗撮事案が発生し、さらに、ここ数か月の間に、現職の教員が逮捕される事案が続けて発生しており、**本年度の逮捕者は合計4人**となりました。これは、令和元年以降で**過去最多の逮捕者数**となっています。また、令和元年以降の逮捕事案全11件のうち**9件がわいせつ行為**によるもので、そのうち**6件が児童生徒性暴力等に該当する事案**となっていることも、極めて由々しき事態であると言えます。

本来、教職員は、児童生徒を守りながら、大人として、社会人としての一步を正しく導く責務をもつ、極めて「崇高な使命」を有する者です。そのような立場にある者が、自らの使命を忘れ、盗撮、不同意性交、強制わいせつなどのわいせつ行為を行うことは、言語道断、断腸の思いであります。こうした重大かつ切迫した危機に際し、教育行政の責任者として、私自身の切実な思いを伝えるとともに、徹底的な「再発防止」と「信頼回復」を基本方針とした行動変革をお願いしたく、メッセージを綴るものであります。

1 「再発防止」に向けた3つの行動変革

私たちはこれまで、様々な対策や研修を重ねてきましたが、逮捕事案が連続発生していることは、**教職員一人ひとりの倫理観や規範意識が深く希薄化している**ことを示しています。この重大な事実を厳粛に受け止めなければなりません。そこで、「再発防止」に向けて、直ちに行動変革をお願いいたします。

### (1) 研修の見直しと転換

各学校における不祥事防止研修、校内点検、不祥事防止に関するルール作りは、危機管理意識を学校全体に浸透させるための大事な取組です。これらを継続していただくことはもちろんのことですが、これまで研修を重ねてきたにもかかわらず、こうした事態を食い止められなかったという事実をしっかりと受け止め、次のような視点で、その内容や方法を見直していただきたいのです。

①「〇〇したら〇〇という懲戒処分になるから気をつけよう」といった「全体へのかけ声的な研修」に終わっていないか。

②これまでの研修は真に一人ひとりの行動変容まで至っているものとなり得ているか。そのうえで、「なぜ私たちはそのような行為を起こしてしまうのか。どうすれば良かったのか。」といった本質を思考し、語り合う研修へと転換してください。すでに実施している学校もあるかもしれませんが、学校現場の「急な変更はできない」という声も理解しますが、柔軟な発想と臨機応変さを発揮し、具体的な行動変容を促す研修の実現を強く求めます。

### (2) 教育者としての修養の徹底と内面を磨く努力

真に安全な学校を実現するためには、制度やルールを整えると同時に、教職員の内面の規範（誠実さ）を育てることが不可欠です。教育基本法にもある通り、「絶えず研究と修養に励む」ことは、プロとしての責務です。特に「修養」については、「教育者としての誇り」「子どもの尊厳を優先する姿勢」、そして「組織で互いを支え合う責任感」といった意識を育むことが大切です。

日々の振り返り、対話、研鑽を怠らず、内面を磨き高める努力を継続してください。勤務時間以外であっても常に自制心をもって行動し、「自分の言動は教育者として子どもたちに誇れるものなのか」、内省を続けることを忘れないでください。

### (3) 組織的な対話の充実による安心・安全な職場文化の構築

危機を防ぐ鍵は、規制やルール作りだけでなく、人の温かい心と信頼関係です。大切なのは、職員同士が、互いの変化や悩みに気づき、声を掛け合える関係性を築くことです。

校長先生をはじめとする管理職の皆さん。日々、必ず一人ひとりの先生方に声をかけ、その努力を認め、褒めることを欠かさないでください。また、「個別面談」や「対話」を行い、講師を含む全ての職員と真剣に向き合うとともに、隠れた悩みや弱さの声に耳を傾けていただきたいのです。「弱さを見せたら負けだ」と踏ん張っている方もいるかもしれませんが、弱さを出せる職場の方が強い組織です。

そして、教職員の皆さん、職員室は安心できる場所になっていますか。孤立している人はいませんか。忙しい日々だと思いますが、職員室で、児童生徒の成長を喜び、若手からベテランまでの英知を共有し合う時間をもってください。それが、やりがいや貢献実感の高まりに繋がります。さらに、違和感や兆候を組織で共有することが職員を守ることに繋がるのです。教師が育つ学校でなければ子どもは育ちません。そのことを校長を含め全教職員で実践することが、結果として不祥事防止に繋がるのです。

## 2 「信頼回復」は、日々の態度と行動の積み重ね

私たちが失ってはならないものは、子どもたちからの信頼です。今、教職員に対する信頼が根底から揺らいでいます。「先生たちのことなんて信頼できない」そう感じている子どもや保護者の皆様に対して、信頼を取り戻さなければなりません。信頼は、言葉や理念だけでは回復しません。毎日の態度と、行動の積み重ねでつくられるものです。子どもたちは、私たちの背中を見ています。誠実であること、真っ直ぐであること、あらゆることに感謝すること、弱さを認め助け合うこと。その姿を一緒に示していきましょう。

そして、この危機を機に、大切な教育の原点である「マルトリートメント（不適切なかかわり）の根絶」をここに掲げます。これは、体罰や虐待まではいかないものの、知らず知らずのうちに、子どもの心を傷つけ、成長を阻害する不適切な言動（毒語）全般を指します。子どもとの信頼関係を築くため、マルトリートメントの解消は必要不可欠です。そこで、私自身も学校現場でマルトリートメントを行ってきたのではないかという反省を踏まえ、私たちが取り組むべき原点行動の徹底を強く要請いたします。

- ①教育の原点や初心に立ち返り、一人ひとりの子どもを、対等な人間として捉えること
- ②温かいまなざしで子どもを捉え、温かい声かけをするなど「質の高いコミュニケーション」を実施することで信頼関係を構築し、学校を安心して過ごせる場所にすること
- ③責任を子どもや保護者に転嫁せず、自分自身を振り返って反省する謙虚な姿勢を堅持すること

こうしたことを実行に移すことが、学力や不登校といった高知県の教育課題の解決、不祥事根絶に直結するものと確信いたします。

### 結びに

教職員の皆さん。失った信頼を取り戻す道は平坦ではありません。残念ながら、大切な話であっても「他人ごと」として受け止めてしまうのが人間の弱さです。しかし、本日、共有したことを、皆さんの「自分ごと」として実行に移してください。そして、不祥事に繋がる僅かな前兆（氷山の一角）に、いち早く「気づく」プロの意識を研ぎ澄ませてください。

私も、子どもたちのため、教職員のために、環境を整え、現場の声を聴き、必要な支援をためらわずに行います。先生方の挑戦や悩みを受け止め、支え、共に進む覚悟です。

私たちの最終的な目標は、第3期教育大綱・第4期教育振興基本計画のコンセプトである「きらっと いきいき あったかい 高知家の教育」を実現することです。そのためには、子どもたちが安心して挑戦し、多様な違いを認め合える「きらっと いきいき あったかい 教室（居場所）」を、教職員が互いのよさや弱さを認め合い、支え合える「きらっと いきいき あったかい 職員室（学校）」を創り上げていただくことを願っています。

子どもは、私たちの未来から託された大切な宝です。その未来を担う子どもたちの笑顔のために、教育委員会と学校が一丸となり、「自覚」と「誇り」と「気づき」をもって、この逆境を必ず克服しましょう。今日この瞬間から、新たな一步を踏み出すことを求めまして、私のメッセージといたします。

高知県教育長 今城 純子